

<参考>**魅力ある十日町市立中学校づくり方針（概要版）例****はじめに**

十日町市では、子どもの数の減少や学校施設の老朽化など、教育を取り巻く環境が大きく変わっています。その中でも、これから先も子どもたちに質の高い教育を安定して届けていくことが求められています。

中学校では、多様な仲間と関わりながら学び、社会の中で生きる力や主体的に行動する力を育てることが大切です。

こうした教育は、まちづくりとも深く関係しています。十日町市では、「雪と生きる。大地に遊ぶ。未来を創造するまち とおかまち」という将来の姿を掲げ、「人にやさしいまちづくり」などの方針のもとで取組を進めています。学校教育では、「ふるさとに遊ぶ。共に生きる。自ら創る。」を十日町市の目指す学校教育の姿として、今後の方向性を示しています。この方針も、その考えをもとに作られています。

また、自然や雪国の暮らし、人とのつながりなどの地域のよさは、学びを支える大切な土台です。この方針では、それらを生かした学びを大切にします。

これまでの中学校のあり方について提言や地域での話し合い、子どもや保護者の意見を踏まえ、新しい中学校の姿を検討してきました。

本方針は、目指す教育とその実現に必要な環境づくりの方向を示すものです。十日町市は、すべての生徒が安心して学び、自分の力を伸ばせる学校を目指します。

また、中学校の再編は計画的に進める必要があり、地域の理解と協力を得ながら進めていきます。

1. 十日町市が目指す教育の姿**(1) 育てたい子どもの姿**

十日町市が目指すのは、自分のよさや可能性に気づき、自分から成長しようとする生徒です。

また、いろいろな考えを持つ仲間と関わり、お互いを認め合い、協力しながら、考える力や伝える力、判断する力、問題を解決する力を高めていく生徒です。さらに、コミュニケーション能力や責任感を持ち、自分から行動できる生徒です。

そして、しっかりとした学力を身に付け、学んだことを社会で生かしながら、よりよく生きようとする姿勢を持つ生徒です。

学校・家庭・地域が協力して、このような子どもを育てていきます。

(2) 新しい学校で大切にしたい教育

(未来を切り拓く力を育てる)

生徒一人ひとりが安心して自分らしく学び、仲間や地域と関わりながら、自分の未来を切り拓く力を育てます。そのために、お互いを認め合い、安心して相談できる、あたたかい学校づくりを進めます。

(信頼関係を大切にしたい学校運営)

これまで進めてきた「居心地のよい学級づくり」をさらに発展させ、先生と生徒の信頼関係を大切にします。これにより、不登校やいじめの防止にもつなげます。

(主体的・対話的で深い学び)

基礎・基本をしっかりと学びながら、自分で考え、仲間と話し合い、理解を深める学びを進めます。一人ひとりに合った学びと、協力して学ぶ活動を大切にします。

(キャリア教育)

地域の人や資源を生かした学びを通して、ふるさとを好きになり、自分の生き方を考える力を育てます。

(「学校は楽しい」と思える学校)

先生の専門性を生かしながら、安心して学べる環境を整え、生徒が「学校は楽しい」と感じられる学校を目指します。

2. 多様な学びの充実

(1) 主体的・対話的で深い学び

自分で課題を見つけ、仲間や社会と関わりながら考えを深め、学び続ける力を育てます。

授業では、自分で考え、振り返りながら成長していく学びを大切にします。また、話し合いや地域の人との関わりを通して、多様な考えに触れます。

さらに、学んだことを活用して問題を解決し、新しい考えを生み出す力を育てます。

(2) 個別最適な学びと協働的な学び

一人ひとりの興味や理解に合わせた学びを進め、それぞれの力を伸ばします。

ICTを活用し、学びの記録や教材を工夫します。安心して学べる環境も整えます。

また、仲間と協力して学び、考えを深める活動も大切にします。

(3) 小中一貫教育

小学校から中学校までの9年間をつなげて、学びを進めます。

先生同士が協力し、学習や生活のサポートを一体的に行います。地域と連携しながら、ふるさとを大切に育てます。

(4) 特別な支援とインクルーシブ教育

一人ひとりの状況に合わせた支援を行います。

関係機関や家庭と連携し、長く続く支援を行います。必要な配慮や支援員の配置も行います。

すべての生徒と一緒に学び、お互いを理解し合う教育を進めます。

(5) キャリア教育

自分のよさや可能性を知り、将来の生き方を考える力を育てます。

学校生活や地域との関わりを通して、働くことや社会の役割について学びます。

3. 教育環境の整備

(1) 教育体制

ICT環境を整え、学校だけでなく家などでも学べるようにします。

相談しやすい体制を整え、専門のスタッフと連携して生徒を支えます。

(2) 学校施設

安全で使いやすい学校をつくれます。

さまざまな学び方に対応できる教室や施設を整えます。給食や運動、文化活動の環境も充実させます。

災害時には避難所として使える学校を目指します。

4. 学校マネジメント（運営管理、職員の働く環境等）

新しい中学校では、教職員が専門性を発揮し、生徒一人ひとりに丁寧に向き合える学校運営を目指します。そのため、働き方改革の視点を取り入れ、無理なく質の高い教育を続けられる体制づくりを進めます。

また、適切な学校規模を生かし、組織としての力を高めながら多様な人材が関わる運営を行い、教育の質と働きやすさの両立を図ります。

(1) 働きやすく充実した指導ができる体制

教職員が教育活動に専念できるよう、校務分担の見直しとチームによる運営を進めます。

ICTの活用や事務の共同化により負担を軽減するとともに、部活動の地域移行や外部人材の活用を進め、指導に集中できる環境を整えます。

(2) やりがいを持って働ける環境づくり

教職員がやりがいや誇りを持ち、安心して働き続けられる職場づくりを目指します。

教職員同士が支え合い学び合う環境を整えるとともに、授業改善や研究の時間を確保します。また、業務量の適切な管理により、心身の健康と仕事と生活のバランスを保てる環境を整えます。

(3) 学びのサポート体制

生徒一人ひとりを支えるため、学校内外の専門スタッフが連携する体制を整えます。

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員などが協力し、学習・生活・進路の各面から支援します。地域や関係機関とも連携し、安心して学べる環境を整えます。

5. 地域や社会との連携・協働の体制

(1) コミュニティ・スクールの推進

本市では、地域とともに子どもを育てる学校づくりを進めています。

地域の企業や働く人と連携し、職場体験や出前授業を通して、働くことや地域の魅力を学ぶ機会を広げます。また、地域の大人や専門家、卒業生との関わりを通して、多様な考え方や生き方に触れます。

さらに、自然や文化、雪国の暮らしを生かした体験的な学びにより、ふるさとへの愛着を育てます。学校運営協議会を中心に、地域と協力した学校づくりを進めます。

(2) 地域活動と交流の場づくり

ボランティアや地域行事への参加を通して、生徒が地域の一員であることを実感できる機会を充実させます。

地域学校協働活動を進め、地域全体で子どもを見守り育てる体制を整えます。また、公民館などを活用し、学びや交流の場を広げます。

放課後や休日の居場所づくりや見守り体制を整え、安心して過ごせる環境を確保します。スポーツや文化活動も地域と連携し、幅広い体験の機会を提供します。

6. 建設・運営に係る費用対効果

本市の学校施設は老朽化が進んでおり、今後は大規模な改修や更新が必要です。このまま維持すると、将来にわたり大きな負担が見込まれます。

また、整備を先送りすると費用の増加も懸念されます。一方で、生徒数の減少

により、現在の学校配置の維持は教育環境の面でも課題があります。

このため、学校配置の見直しと施設の集約により、教育環境の向上と財政負担の軽減を両立させます。新しい学校は、安全で柔軟な学びに対応できる持続可能な施設を目指します。

7. 新たな中学校の配置

(1) 通学方法

すべての生徒が安心して通学できるよう、安全で利用しやすい環境を整えます。

公共交通を基本とし、難しい地域にはスクールバスで対応します。通学時間はおおむね45分以内を目安とし、遠距離の生徒には配慮します。

冬季の安全対策や通学路の安全確保も継続して行います。

(2) 学校立地の選定

学校の場所は、生徒数の見通しや通学のしやすさ、安全性、費用などを総合的に考えて決定します。

必要な施設を整えられる広さや法令への適合、安全性の確保を前提とし、公共交通の利便性や地域とのつながりも重視します。

(3) 学区編成

これらを踏まえ、新しい中学校の学区編成は、将来を見据えて10年後を目途に全市1校への再編を基本とし、学びの特性も考慮しながら地域との合意形成を図ります。

その際、通学距離が長くなる生徒に配慮し、地域の実情に応じた通学環境の整備を進めます。また、学校の立地は通学条件や地域バランスを踏まえて適切に選定します。

これらにより、多様な仲間と学び合える環境と、安定した教育環境の実現を目指します。

8. 結び

新しい中学校づくりは、十日町市の未来をつくる大切な取組です。

地域の理解と協力を得ながら、計画的に進めていきます。

子どもたちが安心して学び、自分らしく成長できる学校を、地域とともに実現していきます。